



山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

7月号

第60巻 第6号

2015年



も
く
じ

今月の1枚	1ページ
・シンポジウム「日本アルプスと氷河」開催される	
展示・イベントのご案内	2ページ
・企画展 山博にライチョウがやってくる！ 山博「ライチョウの里」へ再出発	
展示・イベントのご案内	3ページ
・企画展 「山岳風景画の世界 -“山博”収蔵コレクション -」	
・「さんぱく こども夏期だいがく - 山の妖怪ウォッチ -」	
・「みんなで温暖化ウォッチ セミのぬけがらを探せ！」	
博物館のひろば	4ページ
・「ライチョウファウンダー確保」のための巣探し調査ほか	



シンポジウム
「日本アルプスと氷河」開催される

「熱気あふれる会場が、氷河をとかす!?」

小坂 共栄

平成27年5月16日、フレンド・プラザ大町を会場にして大町市・大町市教育委員会主催のシンポジウム「日本アルプスと氷河」が開催されました。昨年から2年間にわたるカクネ里雪渓（氷河）の学術調査計画が進行中であることから（山と博物館第60巻2号）、市民の方々に北アルプスの成り立ちや第四紀における気候変動はもちろん、北アルプスの氷河やカクネ里雪渓（氷河）調査の意義などに対する理解を深めてもらおうと企画されたシンポジウムでは、鈴木啓助（信州大学）・飯田肇（富山県立山カルデラ砂防博物館）・福井幸太郎（富山県立山カルデラ砂防博物館）・原山智（信州大学）・堀田昌伸（長野県環境保全研究所）ら調査団メンバー5人による講演と、それを基にした討論が行われました。

会場の参加者からもたくさんの質問が出されるなど、充実したシンポジウムになったのではないかと思います。定員80名の会場は、市内はもとより県内外各地から100名を超える大勢の参加者で満員となり、「カクネ里雪渓が氷河か否か？」という調査のテーマに、多くの方が関心を持たれていることを実感するものでした。

今年度の本格的調査は、8月下旬を予定しており、現在そのための準備が着々と進められています。調査結果の一部でも近々みなさまにご報告できればと考えています。

（山岳博物館専門員、カクネ里学術調査団団長）

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:htt://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

展示・イベントのご案内

新・ライチョウ舎完成・スバルバルライチョウ飼育開始記念

平成27年度 企画展

山博にライチョウがやってくる！ 山博「ライチョウの里」へ再出発

山岳博物館では、新・ライチョウ舎完成・スバルバルライチョウ飼育開始記念として、平成27年6月12日（金）から7月12日（日）の間、企画展を開催しています。

期間中、付属園においてスバルバルライチョウの見学も行います。

企画展は下記の内容です。

なお、解説書は博物館公式Webサイトからダウンロードいただけるほか、会場内で無料で配布しています。

1. スバルバルライチョウとニホンライチョウは似た者同士！？

スバルバルライチョウ

(写真提供：長野市茶臼山動物園)



ライチョウ (*Lagopus muta*) の仲間は北極を中心に分布がみられるのですが、そのなかで、山博にやってくる「スバルバルライチョウ」は、世界で最も北方にすむライチョウで、「ニホンライチョウ」は、最も南方にすむライチョウとなります。

ここでは、つぎの内容を展示で比較しながら、ライチョウという鳥について知識を深めてみましょう。

【内容】

- 1) 日本とノルウェーにおけるライチョウ事情、2) 生息地、3) 繁殖期、4) ナワバリ、5) 子育て、6) 食べ物と盲腸、7) 換羽

2. 山博のニホンライチョウ研究史

山岳博物館では、1961年（昭和36年）に「北アルプス動物生態研究グループ」におけるニホンライチョウの調査に参加したのをきっかけに、長年にわたり、野外調査を行ってきました。また、1963年（昭和38年）からは、博物館の付属園でニホンライチョウの飼育に取り組み、その飼育は平成16年（2004年）まで続きました。ここでは、山博のニホンライチョウの研究史についてみていきましょう。



【内容】

- 1) ライチョウ研究の幕開け、2) 未知の鳥—ライチョウの生活史を解明する150日間の夏期調査、3) 未知の鳥—ライチョウの生活史を解明する40日間の冬期調査、4) ライチョウ飼育は試行錯誤の連続であった、5) 再開に向けて問題点を洗い出す、6) 山博「ライチョウの里」へ再出発

3. ライチョウ クイズ8番勝負！

ライチョウに関するクイズに挑戦してみてください。

関連催し

■ライチョウ舎竣工セレモニー

開催日時 平成27年7月4日（土）
午前10時～（約30分）



■スバルバルライチョウを見学しよう！

開催日時 平成27年7月4日（土）・5日（日）
1回目：午前10時30分～
2回目：午後2時～（各40分）
参加費 無料

展示・イベントのご案内

山岳博物館 市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。7月は18日（土）と19日（日）です。

企画展「山岳風景画の世界 — “山博” 収蔵コレクション—」

山岳博物館などで収蔵する美術資料のうち、主に北アルプスなどの山々を題材にして明治期以降に描かれた山岳風景画の秀作16点余を展示します。夏山の登山シーズンにあわせ、山岳風景画の世界をお楽しみください。

□会期 7月18日（土）～10月12日（月・祝）
□時間 午前9時～午後5時
(入場は午後4時30分まで)

□会場 市立大町山岳博物館 特別展示室

□参加費 通常の入館料（常設展と共に）が必要
(大人400円、高校生300円、小中生200円)

※ただし、未就学児、市内小中学生、65歳以上の市民は入館無料。また、毎月第3日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日にかぎり、市民は入館無料

□関連催し

▽ミュージアムガイド

・期日 7月26日（日）、8月15日（土）、
9月20日（日）、10月11日（日）

・時間 各日とも1回目…午前10時～
2回目…午後2時～

※各回の所要時間は20分程度、午前・午後とも内容は同じ

・会場 市立大町山岳博物館 特別展示室

・内容 展示資料をご覧いただきながら、学芸員が企画展の見どころを説明します。

※事前申込み不要。当日直接ご参加ください。
ただし、通常入館料が必要です。

△関連特別展「山岳画家・山川勇一郎デッサン展」
(信濃大町山岳フェスティバル2015関連事業)

山岳博物館が収蔵する山岳風景画コレクションの中から、山岳画家・山川勇一郎が描いたデッサン(素描)作品を展示します。

・会期 8月1日(土)～8月16日(日)

・時間 午前9時～午後5時

・会場 JR信濃大町駅前 特設会場

・入場料 無料

・主催 信濃大町山岳フェスティバル実行委員会
・共催 市立大町山岳博物館



大下藤次郎《六月の穗高岳》1907(明治40)年 水彩・紙

「さんぱくこども夏期だいがく —山の妖怪ウォッチー」

山岳博物館で平成23年から毎年開催している「さんぱくこども夏期だいがく」は、夏休み期間中の小学生を対象とした催しです。今年は、山岳にかかる妖怪の説話伝承を紹介するとともに、山岳博物館から鷹狩山山頂まで往復して、市内に残る山の妖怪伝説の伝承地を訪ねます。



山姥伝説がつたわる鷹狩山の姥池(うばいけ)

□日時 8月6日（木）午前9時30分～午後3時

※雨天時は午後0時30分まで

□集合・解散 市立大町山岳博物館

□日程 山岳博物館集合→山の妖怪について説明（屋内）→山姥伝説の現地見学（鷹狩山山頂往復。鷹狩山展望公園で昼食、金比羅神社や姥池など見学）→山岳博物館着→修了書授与などの後、解散

※雨天時は別プログラムにて館内のみで実施

□対象・定員 小学生20人（先着順）

□参加費 無料

□持ち物 筆記用具、飲み物、昼食、帽子、リュックサック、歩きやすい服装と運動靴

□申し込み 8月4日（火）までに、電話または直接、当館へ

「自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウォッチ セミのぬけがらを探せ！」

地球温暖化が身近な自然にどのような影響を及ぼしているのかを知るために、セミのぬけ殻を調べます。毎年同じ場所で調べ続けることで、自然の変化がみえてきます。その変化から地球温暖化の地域への影響について考えます。夏休みの自由研究としてもぜひご参加ください。



□主催 長野県環境保全研究所 市立大町山岳博物館

□協力 自然観察指導員長野県連絡会

セミの抜け殻しらべ市民ネット

□日時 8月3日（月）午前10時～正午 ※雨天実施

□集合場所 市立大町山岳博物館駐車場

□会場 山岳博物館周辺(大町公園周辺)

□対象・定員 小学生以上20人

□参加費 無料

□持ち物 飲み物、帽子、タオル、筆記用具

□申込方法 郵便番号・住所・氏名・電話番号を添えて、電話・ファックス・Eメール等で下記までお申込みください。

□申込・問い合わせ 長野県環境保全研究所（担当：畠中）

TEL 026-239-1031 FAX 026-239-2929

Eメール kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の65歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
(入場の際、受付にてお名前等をご記入ください)

「ライチョウファウンダー確保」のための巣探し調査

平成27年6月1日（月）～6月8日（月）実施



環境省は平成24年度に策定した「ライチョウ保護増殖事業計画」の一環で、日本動物園水族館協会（JAZA）と連携しニホンライチョウの生息域内の巣から卵を集め（採卵）、生息域外（動物園など）でその卵から孵化した導入個体（ファウンダー）を飼育・繁殖するという試みを本年度より開始しました。

その第一歩として、乗鞍岳周辺において採卵のための巣探し調査及び採卵が行われました。山岳博物館はJAZAに加盟しており、その枠組みの中で6月1日か

ら4日まで調査に協力することとなりました。

まず調査は、ひたすら歩き回り、メスのライチョウを見つけることから始まります。次に、発見したメスの行動を観察しながら追跡することで、産卵する巣の位置を特定します。動物園関係者を含む総勢約25名が交代で位ヶ原山荘に泊まり込み、朝6時頃から調査地の乗鞍岳山頂付近に向かい、調査を行いました。

調査指揮者の中村浩志先生（信州大学名誉教授）の下、野生のライチョウの生

態を学びながら調査することで、全員が効率的に巣を探すことができ、山岳博物館が参加した4日間では4つの巣が発見されました。また、全日程では計14巣を発見することができました。

発見した巣の一部から計5個の卵を採卵し、現在東京都恩賜上野動物園で孵化の準備が進められています。6月下旬には2度目の採卵を行い、5個の卵を富山市ファミリーパークに輸送する予定となっています。

今回の調査は、多くの巣を発見した成果だけではなく、域外保全を行う動物園関係者が生息域内のライチョウを深く理解する良い機会となり、将来にわたるニホンライチョウ保全の大きな一歩となりました。

（写真（左）は巣を発見した際の卵の様子、写真（右）はライチョウを双眼鏡で追跡している様子）

第58回針ノ木岳慎太郎祭

平成27年6月7日（日）



6月7日（日）、当地における山岳イベントとして定着している「針ノ木岳慎太郎祭」が、梅雨入り前の晴天のもと幼児から高齢者まで幅広い年代350名の参加者を迎えて盛大に開催され、針ノ木峠までの記念登山には一般参加者、役員200名以上が参加されました。

また山岳博物館友の会ボランティアサークルのメンバーの方々も、自然観察班のスタッフとしてガイドにあたり協力をいただきました。雪渓の雪融けは例年より早く進んでいるようでしたが、観察された植物の種類は例年並みだったものの、開花量は少なめだったようです。

大町市立大町東小学校5年生 木崎湖キャンプにおける学習支援



平成27年6月2日（火）、大町東小学校5年生が毎年実施している木崎湖の自然を活かしたキャンプに、博物館として今年初めて、自然の不思議や素晴らしさを知り、またその地に暮らした人々の歴史について子ども達に学びの機会を提供する学習支援を実施しました。

プログラムでは、仁科三湖のでき方や西山と東山を分断するフォッサマグナについて、また木崎湖周辺に暮らした人々の暮らしや大町市の天然記念物になっている海ノ口のアカマツなどを見学し、木崎湖周辺の自然について学びました。

「第4回梅棹忠夫・山と探検文学賞」 授賞式に出席しました



信濃毎日新聞本社講堂で開催されました授賞式に、大町市長の代理として市長メッセージを伝えてまいりました。

同賞は、山岳に大変造詣があった故「梅棹忠夫」氏を偲び、平成24年度に創設され本年で4年目となります。その折は大町山岳博物館も深く関わりました。

本年度は、アフガニスタンで30年にわたり医療と用水路建設に当たってきた中村哲著「天、共にあり」が受賞し、授賞式には中村氏本人と長野県知事も出席されました。

私も受賞作品を拝読いたしましたが、中村氏の圧倒的な存在感とアフガニスタンの知られざる現状に感銘を受けました。皆さんも、是非、読んでみてください。（山岳博物館長）

編集・発行